

大会参加・研修報告書	
1. 大会・研修会名	第39回 全九州中学生バスケットボール春季選手権大会
2. 研修期間	平成31年3月1日(金)～3日(日)
3. 参加者	森田 将史(長崎)、一瀬 諒(長崎)、松永 雄平(佐世保)、久原 裕未(佐世保)
4. 日程	<p>1日(金) 審判会議</p> <p>■JBAがインテグリティ委員会を発足させたことを契機に、九州協会としてもオンザコートに限らず、コート外の振る舞いも含めて周囲から見られている意識を持って行動するように伝達があった。</p> <hr/> <p>2日(土) 男女1回戦・2回戦</p> <hr/> <p>3日(日) 男女準決勝・決勝</p>
5. 所感	<p><b>【ゲームについて】</b></p> <p>ゲームの準備に関して、特にクルーを組んだことがない方とのPGCにおいては、メカニクスの確認だけでなく、様々な確認を行う必要があると感じた。例として、</p> <p>①チーム分析(キーマン、特徴、過去の戦績等)</p> <p>②メカニクス、ガイドライン確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドライン</li> <li>・リード、トレイル、センターの役割</li> <li>・ローテーション</li> <li>・check-in、checking-out</li> <li>・タイマー管理</li> <li>・OOB</li> <li>・3or2</li> <li>・UF(クライテリア等)</li> <li>・(新ルール)</li> </ul> <p>※各ケースでクリップ(映像)があると共通理解が得やすいと思う。PCが無い方もいらっしやると思います。携帯のアプリでも“FIBA iRef PGC”等の活用も一つの策である。また、大会における判定の傾向を掴み、正しい方向に導くことや、クルーや各自の目標を把握することもCCには必要なことだと感じた。</p> <p>DEFがLGPを占めておらずコンタクトが起こるケースが多く、コールされていないことも多くあった。クルーとのPGCでの確認はもちろんのこと、チームとの共通理解を図ることも課題かと思う。</p> <p><b>【運営について】</b></p> <p>今大会は全て3POで実施、審判主任を配置せず、ゲーム後のポスト・ゲーム・カンファレンスはCCを中心に行った。宮崎県審判員の方々が、各クォーターに区切って全試合分動画を撮影してくださった。審判控室とは別に研修室が設けてあり、そこでプロジェクターから動画を壁に投影して反省会を行った。</p> <p>審判主任の有無に関わらず、動画撮影は大変有効であり、今後九州大会等の開催県になった場合は、それらの設備や人員の配置も検討事項の一つである。</p> <p><b>【総括】</b></p> <p>代表者会議、審判会議でも先日開かれた全国審判長会議の内容も含まれており、特に「インテグリティ」については、レフリーはもちろんプレイヤー、コーチも徹底している2日間であった。以前から、プレイヤー、コーチ、レフリー、観客4者の協力により良いゲームを創ることを目指していたが、今回インテグリティという形で明文化されたこともあり、日本全体の目指すべき方向が定まったのではないかと思う。一方で、コーチの協力を捉え違えてはいけない。レフリー自身が謙虚な姿勢でさらに研鑽を積むことが必要だと思う。</p>